

令和7年度第1回旭川市市民参加推進会議 会議録

日 時 令和7年6月25日(水) 午後6時30分～午後8時30分

場 所 旭川市総合庁舎7階大会議室B

出席者 委員9人

小松委員、椎名委員、杉山委員、田古嶋委員、谷委員、中込委員、長谷川委員、
福屋委員、山本委員

(50音順)

事務局4人

片岡部長、松山次長、牛田補佐、朝日主査

傍聴者 なし

資 料	資料1	令和6年度市民参加の実施状況
	資料2	令和7年度市民参加推進会議の進め方
	資料3	第11期1年目の取組結果
	資料4	託児利用と委員の構成について
	資料5	託児費用補助の御案内
	資料6	市立大学の学生へのアンケートチラシ
	資料7	市民参加のアンケート内容
	資料8	課題解決検討シート

I 開会

- ・委員の9人が出席したため、条例第19条の規定により会議の成立を報告した。
- ・片岡女性活躍推進部長の挨拶があった。

II 議事

1 令和6年度市民参加の実施状況

<会長>

事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料1を説明、報告。

<会長>

実施状況について報告を受けたということでよろしいか。

(一同同意)

2 令和7年度市民参加推進会議の進め方

<会長>

事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料2、3を説明

<会長>

この予定で今年度の会議を進めるということによろしいか。

(一同同意)

3 託児利用と委員の構成について

<会長>

事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料4、5を説明

<会長>

このことについて各委員から意見をお願いします。

<委員>

託児費用補助制度の課題は、自分で託児施設を探さなければいけない点。公平性の観点で市からの紹介ができない部分は理解するが、道標がほしい。この制度のメリットは、1回あたりの費用上限はあるが、回数の上限はないということ。複数の委員を掛け持ちしている人にとっては利用しやすいと思う。理想は、庁舎内の部屋で託児を実施すること。送迎の負担を軽減できるため、生活動線を考えると、会議に参加するハードルが下がる。託児送迎をしてから、会議に参加するには強い熱意が必要である。また、本当の意味での男女平等で考えるなら、父親も託児を利用できることをもっと強調してもよい。今回も託児を利用して参加しているが、子どもは託児の時間を楽しく過ごしている。親として、この環境はありがたい。

<委員>

私は子育てを終えているが、娘が会議に参加するとなった時は、託児費用補助について伝えたいと思う。子どもは外へ出て、いろいろな人と出会えた方が楽しいはず。だから、託児施設を楽しく利用しているという話を他の委員から聞くととても安心する。

<委員>

利用者が1件しかなかったことは残念。託児補助にどのくらいの予算を組んでいるのか。

<事務局>

令和6年度の予算は10回分であったが、令和7年度は5回分。予算は前年度の実績を考慮する。実績があれば、根拠に基づいて必要性を伝えることができる。

<副会長>

託児施設を探す負担は大きい。施設のリスト化を可能にしてほしいと思う。懇談会の年齢別データで、70歳以上の参加者割合が3分の1程度を占めている。これは、10年、20年前も同じ状況なのか、令和の時代だからこそそのデータなのかを知りたい。今年からでもデータを蓄積できたらいいと思う。

<会長>

市役所の中に保育室が必要な時代であると思った。保育室が難しいとしても、市役所内の部屋を提供し、契約したシッターなどに託児を依頼することは可能ではないか。

<委員>

託児利用が1件という結果は残念であるが、その1件がこの会議のメンバーからの利用だったことに大きな意義がある。

<委員>

市の子育てガイドブックに託児制度の対象施設をリスト化し、掲載できるとよい。ガイドブックで市民参加の託児制度のことに触れ、子育てしながらも参加が可能である案内ができるとさらによいと思う。子育て世代の人たちが、一番目にしやすい方法である。

<委員>

実際に託児を利用してくれた委員がこの委員会にいて、直接、意見を聞けることはとても貴重。確かに自分で託児事業者を選ぶというのは、大きな負担である。議論にあったように庁舎内に託児室があり、利用したいときに利用できるというのが理想。このシステムが、女性活躍推進課のこの会議から出た企画ということが非常に意義深い。利用率というのも重要であるが、このシステムがあるということが大事であり、継続してほしいと思う。

<委員>

利用するには、使いやすい仕組みであることが最も重要。携帯で「託児」と検索すると、主に保育園の情報が表示される。一方で「ベビーシッター」と検索すると、シッターについての情報がヒットする。利用者がより簡単に、使いやすい方法を実現するためには、検索時に適切に誘導できる仕組みがあると便利である。

<委員>

前向きな対策ではないが、該当託児施設のリスト作成が難しいのであれば、せめて非該当の託児施設リストを掲載することはできないか。何か道標が欲しいと思う。

4 学生の市民参加について

<会長>

事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料6～8を説明

<委員>

このアンケートの目的を教えてください。

<事務局>

学生が市民参加できていない理由を整理し、主体的に市民参加するきっかけをつくることが目的である。協力という手段でアンケートを依頼し、それに答えることでまず一つ市民参加をしたという流れをつくりたい。

<会長>

では、意見交流をはじめます。

《2グループに分かれて、意見交流》

<会長>

1グループから発表をお願いします。

<1グループ>

アンケートチラシは、素直に分かりやすく伝える必要がある。QRコードは目立つように大きく表示し、スマートフォンをかざしやすいように促す設計にする。キャラクターを活用し、気持ちを引き込む動線をつくっていくことも1つの方法である。また、このアンケートの回答時間をあらかじめ明示することで、回答への心理的負担を軽減させることも大事。

アンケートの内容は、固い印象があるため、分かりやすい文言にする。直接的な表現は避けた方がよい。主語を入れて、回答者が設問の意図を正確に理解するようにする。設問は、シンプルで文字数を抑える。読みやすく、選びやすい字数が最後まで回答につながる。アンケートの実施期間は短期間に設定する方が効果的である。

<会長>

2グループの発表をお願いします。

<2グループ>

アンケートチラシは、文言を減らし、イラストを多めに使用する。また、学生たちはスマートフォンですぐ検索できるため、項目だけ掲載し、詳細な説明は不要。色使いはカラフルで、明るいチラシがよい。

アンケート回答のメリットとして、自分たちの成長につながることを明確に表記することが大事。

少し余談になるが、高校生が市民参加できるよう対象の年齢層を広げていけるとよい。意欲的な高校生は旭川に結構いるはず。今から市政に関われる良いきっかけになる。

アンケート内容であるが、市民参加の各項目をここで説明することで理解が深まると思う。

回答者が自分に必要のない項目を飛ばせるような構成ができればよい。学生目線の主語を作り、読み手を意識した表現にすることで、分かりやすさが向上する。アンケート回答後は「市民参加証明書」のような成果が目に見える形で得られるとよい。参加しやすい時間帯について、平日の夕方や夜間は解釈が分かれるため、具体的な時間を明示して質問項目に含める。アンケートの所要時間は、前のグループでも指摘があったように、明記が必要である。

<会長>

大変熱心な議論と貴重な意見に感謝する。本日の審議は終了とする。